

100 年の歩み Ⅲ期 神大時代  
年表の公開

[所員] 前田禎彦 泉水英計 高城 玲 丸山泰明

## 神大常民年表の作成にあたって

前田 禎彦

日本常民文化研究所（常民研）は、2021年に創立100周年を迎え、2025年まで様々な記念事業が行われている。その一環として、常民研100年の歩みを一覧できる詳細年表の作成が議題にのぼり、所員の泉水英計・高城玲・前田禎彦・丸山泰明、職員の越智信也の5名が年表作業部会のメンバーとなり、2022年度から月に一度ほど集まって作業に取りかかることになった。

常民研の歴史は、第Ⅰ期 アチック時代（アチック・ミュージアム期、1921年～1950年）、第Ⅱ期 財団時代（財団法人日本常民文化研究所期、1950年～1982年）、第Ⅲ期 神大時代（神奈川大学日本常民文化研究所期、1982年～現在）の3期に大別できる。各期の活動内容や資料の残り方は研究所のあり方の変化にともなって大きな違いがある。そのため、全体を統一した形式と内容をもつ年表の作成は困難で、各期の特徴に相応しい年表のあり方を模索する必要がある。そこで、作業は資料が

研究所紹介

日本常民文化研究所とは

渋谷敬三とアチック・ミュージアム

創立100周年記念

100年の歩み

沿革

学術交流

組織

学科・大学院・資格課程への協力

メディア掲載情報

要覧（デジタルパンフ）

100年の歩み

シェアする | コメント | LINEで見る

日本常民文化研究所（常民研）は、2021年に創立100周年を迎えました。これを機にその間の歩みを振り返って詳細な年表を作成することとなりました。常民研の歴史は、Ⅰ期 アチック時代（アチック・ミュージアム期、日本常民文化研究所に改称後も含む、1921～1950）、Ⅱ期 財団時代（財団法人日本常民文化研究所期、1950～1982）、Ⅲ期 神大時代（神奈川大学日本常民文化研究所期、1982～現在）の3期に大別できますが、各期の活動内容や資料の残り方には大きな違いがあり、統一した形式と内容をもつ年表の作成は困難です。そこで、各期の特徴に相応しい年表のあり方を模索していきたいと考えています。

今回は、最初の成果としてⅢ期 神大時代が始まる1982年（昭和57）から2003（平成15）までの年表を公開いたします。内容的にはまだまだ不十分なものが、順次、修正や増補を加えていく予定です。

■ Ⅲ期 神大時代（神奈川大学日本常民文化研究所期、1982～現在）（1）

→ 【凡例】

- 1. 1982（昭和57）年～1992（平成4）年
- 2. 1993（平成5）年～2000（平成12）年
- 3. 2001（平成13）年～2003（平成15）年

※年表：スマートフォン表示の場合は横スクロール

1982 昭和57 4.1	3月31日、財団法人日本常民文化研究所は解散し、4月1日、神奈川大学日本常民文化研究所が旧常民研の活動を全面的に引き継ぐ	
4.3	『要覧1982』刊行（以後、1996年まで毎年刊行）	
4.8	第4回所員会議開催（以後、定例で月1回開催）	

写真1 100周年年表（冒頭）[http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/about/04\\_3.html](http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/about/04_3.html)

研究所紹介
日本常民文化研究所とは
渋谷敬三とアチック・ミュージアム
創立100周年記念
100年の歩み
沿革
学術交流
組織
学科・大学院・資格課程への協力
メディア掲載情報
要覧（デジタルパンフ）

## 100年の歩み

シェアする 〓 ポスト LINEで送る

### ■ Ⅲ期. 神大時代（神奈川大学日本常民文化研究所期、1982～現在）（2）

→ 【凡例】

- 1. 1982（昭和57）年～1992（平成4）年
- 2. 1993（平成5）年～2000（平成12）年
- 3. 2001（平成13）年～2003（平成15）年

※年表：スマートフォン表示の場合は横スクロール

1993 平成5 1.13	和歌山県和歌山市にて猿まわしの調査（番月洋一郎）（～1/16）
1.21	第42回研究会開催（笠間千浪「アイヌ民族と新法制定運動－東京在住ウタリ実態調査報告書を中心に－」）
2.1	静岡県松崎町にて漁村史料調査（山口徹）（～2/2）
2.6	山口県周東町にて猿舞座周辺の猿まわしの村の調査（番月）（～2/9）
2.25	高知県大豊村にて焼畑民俗の調査（番月）（～3/2）
3.6	仙台市民図書館にて近世地方文人の史料調査（橋川俊忠）（～3/7）
3.31	『運搬員－背負う・提げる・載せる・曳く』（神奈川大学日本常民文化研究所調査報告第16集、平凡社）刊行
4.1	常民研を基礎に大学院歴史民俗資料科学研究科が開設
4.1	委託研究「船祭り祭礼船および奉納和船調査」開始
6.17	第43回研究会開催（澤木武美「大学史編纂と大学史資料」）
6.23	沼津市史編纂に協力して史料調査（山口・岩田みゆき・田上繁・田口和子）（～6/26）
6.29	山形県新庄市にて学芸員課程の実習を兼ねて新庄ふるさと歴史センターに協力して民家調査（山口・岩田・田口・津田良樹）（～7/2）

写真2 100周年年表（1993年冒頭）

比較的整っている第Ⅲ期. 神大時代から始めることになった。

神奈川大学に移ってからの常民研の活動は、『民具マンスリー』に掲載された年度別の「活動記録」によって知ることができる。年表は、その記事をベースとし、講座・講演会・研究会および調査など、研究所の活動で大切な項目を抜き出し、それらを『要覧』『歴史と民俗』『常民研 news』といった関連資料と付き合わせて正確を期した。さらに、調査に関しては、必要に応じて当時の出張記録にさかのぼって調査期間・調査地・参加者などの確認を行った。

こうして、2023年度には、最初の成果として第Ⅲ期. 神大時代の1982年（昭和57）から2003年（平成15）までの年表「100年の歩み」を常民研 Web サイトに公開することができた。淡々とした項目の羅列からも、最初は手探り状態から始まった神大における常民研の活動が、1980年代後半から90年代にかけて、奥能登時国家や伊予二神島など、ひとつの調査地を対象に継続して行われた共同研究を核に、当時所員であった各先生方の関心にもとづく個別研究が加わって次第に活気づいていく様子を見て取ることができる。

今回発表した年表は、21世紀COEプログラムに採用され、常民研の活動に新たな変化が訪れる2003年までを対象とした。今後も随時、誤りの訂正や情報の追加を行って年表の充実を図っていきたいが、次にはさかのぼって、資料が整理されておらず、その活動がよくわかっていない第Ⅱ期. 財団時代の年表作成に取り組んでいく予定である。

### ■ 2023年度の活動

○100周年年表作業部会 2023年5月4日・6月17日・7月27日・9月16日・10月7日・11月25日・2024年1月22日・2月5日・2月22日・3月15日 前田禎彦・泉水英計・高城玲・丸山泰明・越智信也